

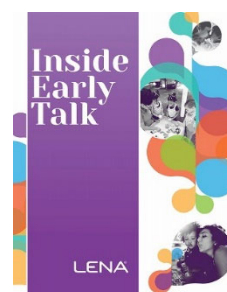
『ペアレント・ネイション』、151～152 ページ、159 ページの…

「生後 18 か月から 24 か月が最も重要」

「チャイルドケアで最もやりとりが少ないのがこの時期」

「1 時間あたり 40 回のやりとりを基準とすべきです」

- ・ LENA の報告書、”Inside Early Talk” (2020)は、<https://www.lena.org/downloads/> からダウンロードできる (アドレス登録が必要)。
- ・ 上記報告書のもとにもなっている 2018 年の論文 “Language Experience in the Second Year of Life and Language Outcomes in Late Childhood” は、米国小児科学会 Pediatrics 誌のサイトで公開 (論文タイトルで検索)。



鍵となる内容の要約 (転載許諾は得ていないため、図は原典をご覧ください)

方法：146 人の乳幼児について 6 か月間、毎月 1 日、家庭環境下でのやりとりや周囲の声をすべて LENA で記録し、言葉とやりとりの数と質を専用ソフトで解析。さらに、この子どもたちが 9～14 歳の時点で言語／認知スキル・テストを実施。相関関係を統計分析。子どもの性別は男女ほぼ同数で、研究時の母親の最終学歴は「高卒未満」～「大卒以上」。学歴等の背景要因の重みも統計分析で仕分けている。

【家庭】

- 1) 後年 (9～14 歳) の各種認知テストの点数と最も強く相関 (比例) していたのは、**生後 18～24 か月の家庭におけるやりとりの数。**(論文の図 3)
- 2) 生後 18～24 か月期、1 時間あたりのやりとりの数が 2 回増えるごとに、後年の IQ テスト、言語スキル・テストの点数が統計学的有意に上昇。やりとりの数が 1 時間に計 40 回を超えると、やりとり回数とテスト点数の間の比例関係は弱くなり、やりとりの数が増えても点数は上がらなくなる。我々は、すべての年齢で「1 時間 40 回」を推奨する。質の高いやりとり行動を子どもがとても小さい時からすることで、大切な習慣がつけられる。(報告書 4 ページ)
- 3) 生後 18～24 か月期、やりとりが「1 時間 40 回」以上の家庭で見ると、40 回を超えているのは 12 時間すべてではなく、**朝昼晩の 8 時間程度**。また、1 時間ずっとやりとりをしているわけではなく、**1 時間のうち 25 分程度**、集中的にやりとりした結果の計 40 回。そして、この約 25 分を見ると、**1 分間に 2～3 回**、質の高い (内容のある) やりとりをしている。「1 時間に 40 回なんて大変」と感じる必要はない。「やりとりを 1 往復した」と思ったら、もう 1 回やってみて！ (報告書 6 ページ)

【チャイルドケア】

- 4) 家庭では 1 時間あたりのやりとりの数が、生後 2～11 か月（平均約 27 回）、11～17 か月（約 30 回）、18～24 か月（約 34 回）、25～36 か月（約 40 回）と増えるのに対し、施設型チャイルドケアでは 1 時間あたりのやりとりはそれぞれの期間で約 22 回、約 17 回、約 17 回、約 18 回と少なく、増えない。自宅で少人数の子どもを預かる型のチャイルドケアでは、それぞれの時期が約 20 回、約 23 回、約 23 回、約 27 回と施設型よりも平均値は高いが、家庭や施設型チャイルドケアに比べると、回数のばらつきがとても大きい。（報告書 9 ページの図）
- 5) 後年（9～14 歳）の言語／認知スキル・テストの点数に最も強く比例するのは生後 18～24 か月のやりとりの回数だが、チャイルドケアで最もやりとりが少ないのはこの時期で、1 時間に平均約 17 回。（報告書 12 ページ）
- 6) LENA の研究グループが 6000 人以上の子どもを対象に調べた結果、生後 18～24 か月期、1 時間あたり 40 回以上のやりとりをしていた子どもの割合はチャイルドケアで 4%。一方、家庭で生後 18～24 か月、1 時間 40 回以上のやりとりをしていた子どもの割合は 34%。（報告書 12 ページ）

★解説（掛札）：

この一連の研究は「9～14 歳の認知スキル発達に最も比例するのが 18～24 か月のやりとりだ」と示したものであり、「18 か月になるまでやりとりをしなくていい」と言っているわけではありません。保護者と子どもの間のやりとり、やりとりの習慣づくりは生まれた日から重要であり、非認知スキル、認知スキルの発達において不可欠です。

そして…。日本は、未就学児施設よりも家庭のほうがやりとりは多いのでしょうか？ 未就学児施設で子どもが保育者とやりとりしている回数は？ 一方向の「言葉がけ」ではなく、「やりとり」です。生後 18～24 か月は保育施設の 1 歳児クラスに該当しますが、この時期の子どもは成長発達が著しいため、同じ「1 歳児クラス」と言ってもあらゆる側面で個人差が大きく、一人ひとりに合わせた対応が不可欠。ところが、保育者 1 人に対して子ども 6 人という非常に少ない配置であり、安全上も保育・教育上も問題があります。

さらに、生まれてから 3 歳までの重要なこの時期、保護者が家庭で子どもと時間をかけてかかわることは、日本の働き方の現状では（保護者の所得にかかわらず）困難でしょう。